

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	編輯後記
Author(s)	松井
Citation	龍南, 204: 123-123
Issue date	1927-12-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8985
Right	

う。

▽龍南三年夢の如し——頗る卑俗な言葉だが多分に眞實さを持つてゐる言葉だ。充分に仕事をした人、あるひは一ぱしの仕事のできかなかつた人も三年の月日がまさに刻れやうとしてゐる今になつて見ると、全様に感慨無量たらざるを得ないだらう。中學からぼつと出て來た僕に、どんな自由がそこにまつてゐた事だらうか僕は誇張してはゐない。言ひかへれば、中學よりもどんなに自由さがあつた事だらう。幾分でも好意を以つて龍南の三年生活を回顧できる事は、僕にとつてはどんな喜びだらう。僕は、だが、靜蕭に龍南を去らうとしてゐる。過ぎ去つたものは美しいから。

富成馬喜平
犬養孝

(休學中)

編輯後記

▽菊花枯れ柑橘實を結び初霜到る。かくて第二學期の試験だ季節のあわたいしさをかこつ余裕を得ず、賑やかな新玉の春である。

▽今度もまた發行がなされた。すばらをするつもりではなかつたが、結局した事になる。何とも申しわけない次第であるそして試験の最中にこの後記をかく不覺を慨くのみ。龍南人諸彦の御諒恕を乞ふ。

▽宛然これ論説の號である。應募小説の原稿僅々二篇の結果だと諒察ありたし。龍南小説界のスランプー新進作家の席捲の日尙遠き乎。

▽田中、小川岡先生の玉稿を戴いた。編輯者として最後まで行つたのである。

▽表紙の意匠の題字は野々口先生の御揮毫による。ポールドの上でなつかしい御筆勢だ。

▽終りに諸彦の御自愛を祝る。

(松井)